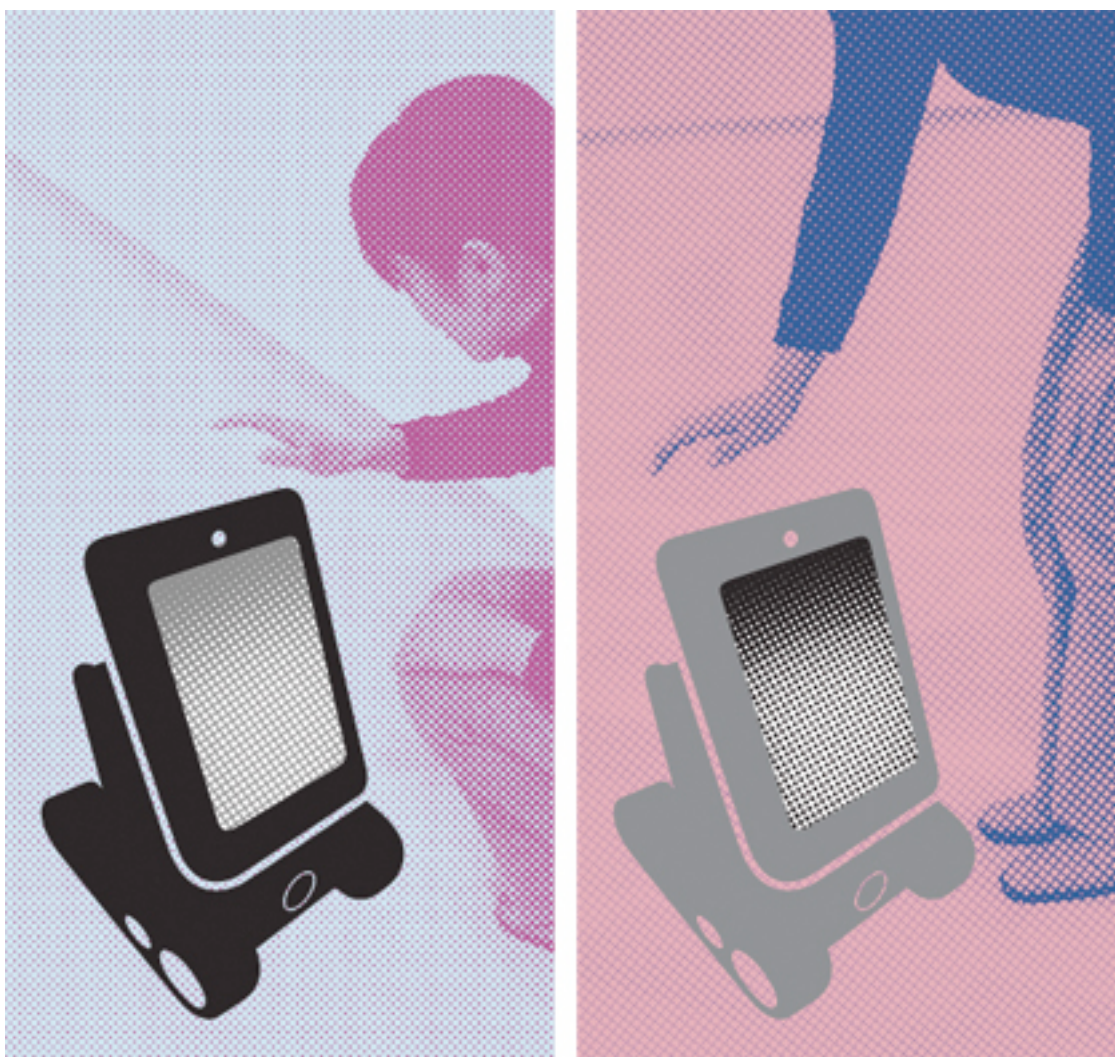


プレスリリース  
山口情報芸術センター(YCAM) presents

## クワクボリョウタ展「R/V」(新作インスタレーション)



アーティスト：クワクボリョウタ

2005年1月8日(土)～2月21日(月) 10:00～20:00 (※火曜休館)  
山口情報芸術センター スタジオB 入場無料



2004年12月9日プレスリリース  
山口情報芸術センター(YCAM) presents

## クワクポリョウタ展「R/V」(新作インスタレーション)

アーティスト：クワクポリョウタ

2005年1月8日(土)~2月21日(月) 10:00~20:00 (※火曜休館)

山口情報芸術センター スタジオ B 入場無料

プロジェクト・キュレーター：阿部一直 (YCAM)

製作協力：YCAM InterLab

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

企画制作：山口情報芸術センター

YCAM では、クワクポリョウタの新作インスタレーションとなるクワクポリョウタ展「R/V」を開催します。クワクポリョウタは、第7回文化庁メディア芸術祭(2004年)アート部門大賞受賞、ナムジュン・パイク賞ノミネート(ドルトムント、ドイツ)など、近年の活躍は目ざましく、現在最も期待されているメディアアーティストの1人といえるでしょう。この「R/V」は、YCAM からアーティストに作品制作を委嘱したもので、今回の展示のためにゼロから構想・制作された最新のインスタレーション作品です。

### 人とロボットの親和的關係：テクノロジーによって人間關係がどう変わるのか？

クワクポリョウタは、自らを「デバイス・アーティスト」と呼んでいます。彼は、コンピュータプログラムによるアートを目指すだけでなく、戦後の日本文化がつけねに作り出してきた、実際にうごく機械やおもちゃなどの表現の面白さ、ゲームやサブカルチャーへの影響などを踏まえた上で、デバイスというモノ製作とデジタル情報技術を独自の視点で結びつけ、その両面を自ら創作する非常にユニークなアーティストとして認められています。

新しいテクノロジーを身につけたり、機械・ロボットなどのデバイスを使用することによって、人間關係がどう変わるのか？実際のコミュニケーションがどのように影響を受けるのか？ これらがクワクポ作品において重要な探求テーマとなっています。

### 「R/V」=視聴覚轉換による多重の知覚とリアリティ

今回の新作で発表される自作のロボットは、液晶モニターと CCD カメラ(=映像機械の顔と目)を積んでキャタピラで動き回ることができるものですが、それらは観客の目となり耳となる役割を持ちます。それは同時に人間にとって気になる、かわいい存在であり、親密な關係を作り出す対象でもあります。作品空間の中では、[人⇄人][人⇄ロボット][ロボット⇄ロボット]といった3つのコミュニケーション關係が生まれます。この中で、観客は実際に肉眼で見る知覚と、ロボットを通じた知覚という、2つの知覚=それぞれのリアリティが混在した状態に置かれることになります。

タイトルの「R/V」(アール・ブイ)とは、「Reality(現実)/Virtuality(仮想)」の關係を表し、また別の意味では、RV車(Recreational Vehicle)を示す造語です。本作品は、人間とロボットとの視聴覚におけるスイッチングがもたらす認識が、環境との相互作用の中でどのように変容するのかを試みるプロジェクトです。

## <作品内容解説>

インスタレーションの中央には、四方をスクリーンで囲まれたプレイグラウンドがあり、その周囲に3～4台のロボット操作コンソールボックスが配置されています。プレイグラウンドには、さまざまな種類の映像が壁～床にプロジェクションされています。プレイグラウンドの外側には、赤外線によるプロジェクションで、ロボットにだけ見える風景が投影されています。観客はコンソールボックスの中からプレイグラウンド内にある、液晶モニターと CCD カメラを搭載したキャタピラで構成された動くロボットを遠隔操作し、ロボットを通してプレイグラウンドを走査・観察することができます。観客は、ロボットが動き回るプレイグラウンドに実際に入ることもできます。

コンソールボックスの内部には付属の CCD カメラとマイクロフォンが設置され、そこで撮影・採音された観客の映像・音声はロボットの頭部に付属された液晶モニターにリアルタイムに再生されます。また同様に、観客の正面にはロボットからの眺望が送信され、ロボットと観客の「視聴覚」は転換されて、コンソールボックス/液晶モニターそれぞれに表示されます。そのため「顔」を持ち、「言葉」を話す観客の身体分身のようなロボットが、一帯を動き回る状況が生み出されます。観客は、ロボットとの視聴覚の転換によって不思議な身体性を感じとることができます。また同時に複数人数がコンソールボックスから操縦することで、ロボットどうしが話したり、相互に影響を与え合う場が生まれていきます。

※この作品は、YCAM においてアーティストの滞在制作をへて発表される新作で、デバイスや装置はこのために開発された初公開のものとなります。

## <アーティストプロフィール>

### ■クワクポリョウタ

メディアアーティスト。1971 年生まれ。筑波大学大学院修士課程デザイン研究科総合造形修了。国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)卒業。 <http://www.vector-scan.com/>  
エレクトロニクスを中心にデジタルとアナログの境界線上で作品を制作する一方、他のアーティストのサポート・エンジニアリングや、製品・おもちゃ開発なども手がける。ハイテクの現代にあえてローテクの魅力にこだわり独自の存在感を放つ。携帯型の電光掲示板「Bitman」(1998 年)など、遊び心をシンプルで洗練された造形に落とし込む作品を数多く発表。企業との共同開発も多い。2002 年には異なるストーリー同士で対戦するゲームマシン対戦型ゲーム「PLX」で、2003 年にはブロックを組み合わせて音楽をつくるインターフェイス「BlockJam」でアルス・エレクトロニカ入選。2004 年には「HeavenSeed」で第 7 回「文化庁メディア芸術祭」アート部門大賞を受賞。また円筒形の対戦型ビデオアートゲーム「loopScape」が「ナムジュン・パイク賞」(ドルトムント、ドイツ)にノミネートされる。その他国内外で多数の展示を行う。2002 年シンガポールエキスポ(シンガポール)、シーグラフ (US)、「Design+」(台湾)、2003 年「時間旅行展」(日本科学未来館)、2004 年「リアクティビティ=再生する可能性展」(NTTICC)など。

## <山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

### ■JR 新山口駅から

- ・ JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分/タクシー5 分
- ・ JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分/バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5 分
- ・ 防長バスで 25 分、中園町下車

### ■自動車利用

- ・ 山陽自動車道で防府東 IC から 30 分
- ・ 九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

## <お問い合わせ>

山口情報芸術センター (広報担当:小滝)  
山口県山口市中国町 7-7 〒753-0075  
TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216  
info@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>